

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|----------|-----|------|--------------------------|----------|
| 科目 | 言語文化 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 言語文化(数研) | | 副教材等 | 総合文字力 国語必携ライトパーフェクト演習 | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を的確に把握し効果的に表現する資質。能力を育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
|---------|---|

| 評価の観点 | | |
|---|--|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|------------------|--|---|-------|---|---|--|----------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 5 6 7 | 古 古文入門「児のそら寝」 「検非違使忠明」 | ・古典を読むのに必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 | ○ | | | 歴史的仮名遣いのきまりや、古典特有の表現、用言の活用について理解している。 | 定期考査 課題 小テスト 授業態度 |
| | | ・内容や構成、展開を的確に読み取り、作品に表れているものの見方、考え方を捉える。 | | ○ | ○ | 登場人物の心情の変化や行動の理由について読み取ることができる。 進んで歴史的仮名遣いを理解し、説話の面白さを読み取り、他者に説明できる。 | |
| | 古 漢文入門「漢文の世界へ」 「漢文の基本構造と訓読」 古 故事「漁夫之利」 | ・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 | ○ | | | 中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史を理解している。 | |
| | | ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 | | ○ | ○ | 漢文の内容を読み取り、自分のものの見方や考え方を深めることができる。 故事成語が現代の日本語ではどのように使われるかを確認し、活用できる。 | |
| | 古 物語「筒井筒」 | ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 | ○ | | | 『伊勢物語』について構成や内容、当時の恋愛や貴族の生活について理解している。 | |
| | | | | ○ | | 本文中の重要語句や助動詞、助詞、和歌の修辭に着目して、本文の内容を把握できる。 | |
| | | | | | ○ | 「男」の心情の変化や行動について、本文を根拠に話し合うことができる。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|--------------|-----------|---|-------|---|--|--|----------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 8 9 10 | 古歌物語「芥川」 | ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 | ○ | | | 『伊勢物語』と作者について知識を深め、重要語句や助動詞を理解している。 | 定期考査 課題 小テスト 授業態度 |
| | | | | ○ | | 本文全体の内容と構成をつかみ、根拠を持って読解することができる。 | |
| | | | | | ○ | 本文に表れた作者の考えを、資料を基に他者と話し合うことができる。 | |
| | 古歴史「菅鮑之文」 | ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 | ○ | | | 用いられている語句の意味や使われ方を理解している。 | |
| | | | | ○ | | 表現の工夫を読み取り、作者が描こうとしている主題を読み取ることができる。 | |
| | | | | | ○ | 読解を通して自らのものの見方、考え方を深め、意見文を書くことができる。 | |
| | 古小説「舟を編む」 | ・作品の内容を踏まえて、独自の観点からの辞書の編集方法を考える。 | ○ | | | 文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | |
| | | | | ○ | | 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 | |
| | | | | | ○ | 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って考察しようとしている。 | |
| 11 12 | 古故事「虎威借狐」 | ・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 | ○ | | | 中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史を理解している。 | 定期考査 課題 小テスト 授業態度 |
| | | | | ○ | | 漢文の内容を読み取り、自分のものの見方や考え方を深めることができる。 | |
| | | | | | ○ | 故事成語が現代の日本語ではどのように使われるかを確認し、活用できる。 | |
| | 現小説「羅生門」 | ・作品に描かれた人間の孤独な葛藤を読み取り、自らのものの見方、考え方を深める。 ・物語展開の把握を通して、文学表現の理解力を養う。 | ○ | | | 物語の展開や、登場人物とその相互関係について理解している。 | |
| | | | | ○ | | 下人の心情の変化について、物語の展開に即して読み取ることができる。 | |
| | | | | ○ | 物語の設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えることができる。 | | |
| 1 2 3 | 古小説「山月記」 | ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 | ○ | | | 語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | 定期考査 課題 小テスト 授業態度 |
| | | | | ○ | | 他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 | |
| | | | | | ○ | 『山月記』と『人虎伝』の違いとその理由を考察しようとしている。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|---------------|-----|------|-----------------------|----------|
| 科目 | 公共 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 高等学校 公共(数研出版) | | 副教材等 | 教科書準拠版 公共 整理ノート(数研出版) | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 現代の諸課題について、様々な資料を基に理解を深め、事実を基に多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論を重ねたりして、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めることを目指す。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|--|---|---|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効率的に調べまとめる技能を身につけている。 | 現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や原理を活用し、事実を多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを討議する力をつけている。 | より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができている。また、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|-------------|-------------------------------|---|-------|---|---|---|--------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 | 巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち | ・身近なテーマを取り上げ自由に話しあうことで、公共的な空間を作っていく主体としての自覚を得る。 | ○ | | | ・青年期や思想、宗教、多様な価値観などについて、幅広く理解する。 | 定期考査 授業態度 ノート・プリント |
| | | | | ○ | | ・自己形成の課題について考察できる。 | |
| | | | | | ○ | ・主体的に考え、話し合いに積極的に参加し、諸課題を追究しようとする。 | |
| 5 6 | 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 | ・先哲の思想や生き方を学び、公共的な空間を作る主体としての自己を考察する。 ・現代の諸課題について考察する。 | ○ | | | ・先哲の思想や現代の諸課題を、幅広く理解する。 | 定期考査 授業態度 ノート・プリント |
| | | | | ○ | | ・人間としての在り方生き方を、議論を通して考察し表現できる。 | |
| | | | | | ○ | ・主体的に考え、諸課題を追究しようとする。 | |
| 7 8 9 | 第2章 公共的な空間における基本原理 | ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本原理を理解し、日本国憲法で保障されている権利を学び考察する。 | ○ | | | ・社会の基本原理や憲法で保障されている権利について、理解する。 | 定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント |
| | | | | ○ | | ・知識を基に、個人と社会との関わりについて考察することができる。 | |
| | | | | | ○ | ・憲法で保障されている権利を、自らの生活や生き方と結びつけることができる。 | |
| 10 | 第3章 ルールをつくり守る私たち | ・法や規範の意義や役割を理解する。 ・裁判員制度について理解を深め、公正な裁判のあり方を考察する。 | ○ | | | ・法や規範、裁判員制度などについて、基本的な事柄を理解する。 | 定期考査 授業態度 ノート・プリント |
| | | | | ○ | | ・契約の例や裁判員裁判の例などを通して、自らのこととして捉え考察できる。 | |
| | | | | | ○ | ・ルール作りに興味・関心を持ち、積極的に参加しようとする。 | |
| 11 12 | 第4章 政治に参加する私たち | ・国内の政治の仕組み、地方自治、選挙制度などに加えて、国際政治にも目を向け、世界の紛争や人権問題について現状を知り、考察する。 | ○ | | | ・国内の政治の仕組み、国際政治などについて、幅広く理解する。 | 定期考査 授業態度 ノート・プリント |
| | | | | ○ | | ・選挙制度や核軍縮などの現状を理解し、理想の仕組みとは何かを考察し、自らの考えを持つことができる。 | |
| | | | | | ○ | ・主体的に考え、国際的な人権問題も自らのこととして捉え考察しようとする。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|--------|------------------------------|--|-------|---|---|---|--------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 1 2 | 第5章 経済活動を行う私たち | ・現代の企業の役割や経済活動の仕組み、政府が経済に果たす役割などを理解するとともに、国際経済の仕組みにも目を向け、課題を理解し考察する。 | ○ | | | ・経済の基本的な仕組み、国際経済の仕組みなどについて、理解する。 | 定期考査 授業態度 ノート・プリント |
| | | | | ○ | | ・経済の面でもグローバル化が進んでいることを理解し、日本経済への影響を考察できる。 | |
| | | | | | ○ | ・主体的に考え、国際的な格差解消のために何をすべきかを考察しようとする。 | |
| 3 | 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち | ・現代社会の諸課題について、探究するための資料を収集・選択し、討論や発表などを通して深く考察する。 | ○ | | | ・適切な資料を収集し、分析できる。 | |
| | | | | ○ | | ・自らテーマを決め、収集した資料をもとに意見を組み立てることができる。 | |
| | | | | | ○ | ・主体的に考え、話し合いに積極的に参加し、諸課題を追究しようとする。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|----------------|-----|------|-----------|----------|
| 科目 | 数学 I | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 最新 数学 I (数研出版) | | 副教材等 | なし | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|--|--|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|-------------|--------------------|--|-------|---|---|--|----------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 5 | 第1章 数と式 第1節 数と式 | 式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 | ○ | | | ・因数分解の公式を用いて、式を因数分解できる。 | 定期考査 授業態度 課題 小テスト |
| | | | | ○ | | ・式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 | |
| | | | | | ○ | ・単項式、多項式の整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 | |
| 5 6 | 第2節 実数 | 中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。 | ○ | | | ・平方根を含む式の計算ができる。分母の有理化の方法について理解している。 | |
| | | | | ○ | | ・平方根の性質や積と商などについて、一般化して考察できる。 | |
| | | | | | ○ | ・循環小数を分数で表す方法に興味・関心をもち、考察しようとする。 | |
| 7 8 9 | 第3節 1次不等式 | 不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 | ○ | | | ・不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。 | |
| | | | | ○ | | ・不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。 | |
| | | | | | ○ | ・連立不等式の解を考察しようとする。 | |
| 9 10 | 第2章 集合と命題 | 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 | ○ | | | ・共通部分、和集合、補集合を求めることができる。 | |
| | | | | ○ | | ・ベン図などを用いて、集合を視覚的に考察することができる。 | |
| | | | | | ○ | ・日常語の「かつ」「または」との関連を認識しようとする。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|--------------------------|--|-------|---|---|--|----------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 11 12 1 | 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ | 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | ○ | | | ・平方完成を利用して、 $y = ax^2 + bx + c$ の軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 | 定期考査 授業態度 課題 小テスト |
| | | | | ○ | | ・2次関数が最大値または最小値をもつことを、グラフを使って、理解しようとする。 | |
| | | | | | ○ | ・2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。 | |
| 2 3 | 第2節 2次方程式と2次不等式 | 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。 | ○ | | | ・2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解くことができる。 | |
| | | | | ○ | | ・2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 | |
| | | | | | ○ | ・2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|--------------|-----|------|---------------|----------|
| 科目 | 生物基礎 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 新編生物基礎(東京書籍) | | 副教材等 | ニューサポート(東京書籍) | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|--|--|---|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。 | 生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---|--|---|-------|---|---|---|---------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 | 1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 1節 生物の多様性 2節 生物の共通性 3節 細胞の特徴 | ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性を理解する。 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性を見いだして表現する。 ・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解している。 | 定期考査 授業態度 レポート 小テスト 授業ノート |
| | | | | ○ | | ・生物の共通性と多様性について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 | |
| | | | | | ○ | ・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | |
| 5 | 2章 生物とエネルギー 1節 生体とATP 2節 酵素の働き 3節 呼吸と光合成 | ・生物の特徴について、生物とエネルギーを理解する。 ・生物の特徴について、生物とエネルギーとの関係性を見いだして表現する。 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・生物とエネルギーについて、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解している。 | |
| | | | | ○ | | ・生物とエネルギーについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 | |
| | | | | | ○ | ・生物とエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | |
| 6 | 2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 1節 生物と遺伝子 2節 DNAの構造 3節 DNAの複製と分配 | ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAを理解する。 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報を担う物質としてのDNAを見いだして表現する。 ・遺伝子とそのはたらきに関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解している。 | |
| | | | | ○ | | ・遺伝情報とDNAについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 | |
| | | | | | ○ | ・遺伝情報とDNAに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|----------|---|--|-------|---|---|---|---------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 7 8 | 2章 遺伝情報とタンパク質合成 1節 タンパク質 2節 タンパク質と遺伝情報 3節 細胞の分化と遺伝子 | ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成を理解する。 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成との関係を見いだして表現する。 ・遺伝情報とタンパク質合成に関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・遺伝情報とタンパク質の合成について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 ・遺伝情報とタンパク質の合成に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 定期考査 授業態度 レポート 小テスト 授業ノート |
| | | | | ○ | | | |
| | | | | | ○ | | |
| 9 | 3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ 1節 体内環境 | ・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解する。 ・恒常性により、体内環境が保たれていることを表現する。 ・体液の調節に関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・体外環境と体内環境、体液の関係について理解している。 ・体内環境の維持について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 ・体内環境に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 定期考査 授業態度 レポート 小テスト 授業ノート |
| | | | | ○ | | | |
| | | | | | ○ | | |
| 10 | 2節 神経系による情報伝達 3節 内分泌系による情報伝達 | ・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解する。 ・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを表現する。 ・自律神経とホルモンの作用に関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・情報の伝達について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 ・情報の伝達に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 定期考査 授業態度 レポート 小テスト 授業ノート |
| | | | | ○ | | | |
| | | | | | ○ | | |
| 11 12 | 2章 免疫のはたらき 1節 免疫のしくみ 2節 免疫の応用 3節 免疫とさまざまな疾患 | ・免疫について、免疫のはたらきを理解する。 ・免疫について、観察、実験などを通して探究し、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして表現する。 ・免疫のはたらきに関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・免疫について、免疫のはたらきの基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・免疫のはたらきについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 ・免疫のはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 定期考査 授業態度 レポート 小テスト 授業ノート |
| | | | | ○ | | | |
| | | | | | ○ | | |
| 1 2 | 4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 1節 身のまわりの植生 2節 植生の遷移 3節 遷移とバイオーム | ・植生と遷移について、植生と遷移の要因を理解する。 ・植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、遷移の要因を見いだして表現する。 ・植生と遷移に関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・植生と遷移について、植生と遷移の基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・植生と遷移について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 ・植生と遷移に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 定期考査 授業態度 レポート 小テスト 授業ノート |
| | | | | ○ | | | |
| | | | | | ○ | | |
| 3 | 2章 生態系と生物の多様性 1節 生態系における生物の多様性 2節 生態系における生物間関係 3節 生態系と人為的攪乱 4節 生態系の保全 | ・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全を理解する。 ・生物の種多様性を見いだすとともに、生態系のバランスと保全について表現する。 ・生態系とその保全に関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○ | | | ・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全の基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。 ・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 定期考査 授業態度 レポート 小テスト 授業ノート |
| | | | | ○ | | | |
| | | | | | ○ | | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|----|-----|-----|-----------|----------|
| 科目 | 体育 | 単位数 | 3単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | なし | | | 副教材等 | なし |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|--|---|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。 | 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 | | | | |
|---|----------------|---|-------|---|---|--|---------------|--|--|--|--|
| | | | a | b | c | | | | | | |
| 4 | 体づくり運動 | ・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気づいたり関わりを理解できる。 ・ねらいや体力の程度を踏まえ自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。 ・体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 | 授業態度 学習カード | | | | |
| | 体育理論 | ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 | | | | | |
| 5 | 器械体操 | <ul style="list-style-type: none"> ・(器械体操)技がよりよくなり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい演技する。 ・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・(器械体操)技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり、みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法を理解できる。 ・(陸上競技)記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法を理解できる。 | | | | | |
| 6 | 陸上競技(競走・跳躍・投擲) | | | | | ○ | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・(器械体操)技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できる。 ・(陸上競技)動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動のk取り組み方を工夫できる。 |
| 7 | ダンスから選択 | | | | | | | | | | ○ |
| 8 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------|--|--|---|--|--|---|---------------|
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・(ダンス)表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できる。 ・(器械体操・陸上競技・ダンス)自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。 | |
| 9 | 体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・現代のスポーツは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックやパラリンピック等の国際大会があることを理解できる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。 | |
| 9 10 11 12 | 球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道) | <ul style="list-style-type: none"> ・(球技)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・(球技)各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること、技術はボール操作とボールを持たない時の動きに大別できることが理解できる。 ・(武道)武道を学習することは自国の文化に誇りを持つことや国際社会で生きていく上で有意義であることを理解することができる。 ・(球技)ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面によりよいマナーや行為について自己を振り返ることができる。 ・(武道)見取り稽古などから合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して練習の成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ・(球技)主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようすることができる。 ・(武道)自主的に取り組むとともに相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にすることができる。 | 授業態度 学習カード |
| 12 1 | 陸上競技(長距離走) | <ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争を通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等に関わらず「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わう。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルに腕を振り力みのないフォームで軽快に走ることができる。 ・合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ・勝敗などを冷静に受け止めルールやマナーを大切にすることができる。 | |
| 2 | 体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関わる全ての人々に、スポーツの価値を一層高める関わり方を理解できる。 ・スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会にもたらす影響について理解できる。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 | 授業態度 学習カード |
| 2 3 | 体づくり運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して気づいたり関わりを理解することができる。 ・健康や安全を確保するために体力や体調に応じた運動の計画等について振り返ることができる。 ・一人一人の違いを大切にし、健康・安全を確保することができる。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|------------------|-----|------|---|---------------|
| 科目 | 音楽 I | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 1年・普通科・スポコ・衛看 |
| 使用教科書 | 高校生の音楽 I (教育芸術社) | | 副教材等 | つどい (九州高等学校音楽教育研究会) Music Note (啓隆社) | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p> |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|--|---|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。</p> <p>・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。</p> | <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p> | <p>音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---|----------|--|-------|---|---|--|-------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 | 校歌・遠征歌 | バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身につけ、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。 | ○ | | | ・創意工夫をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 | 授業態度、 観察評価 ワークシート |
| | | | | ○ | | ・音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 | |
| | | | | | ○ | ・正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心を持ち、主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | |
| 5 | 創作 楽典 | 手拍子やボディーパーカッション、唱歌、打楽器などを用いて音色を工夫したり、リズムパターンを即興で変化させたりして、表現を創意工夫してリズム合奏する。 | ○ | | | ・曲想と楽器の音色やリズムとの関わりについて理解し、創意工夫して表現している。 | |
| | | | | ○ | | ・音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 | |
| | | | | | ○ | ・音色の工夫やリズムパターンの変化と曲想との関わりに関心を持ち、主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 | |
| 6 | 鑑賞 | 音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさに気付く、表現する。 | ○ | | | ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 | |
| | | | | ○ | | ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 | |
| | | | | | ○ | ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|----------|--------------------|--|-------|---|---|---|-------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 7 8 | 蒼き故郷 楽典 | 鼻濁音や, s 音や t 音などの子音の発音について学ぶとともに, 歌詞の内容や曲の背景を理解し, 強弱などに注意して曲にふさわしい表現を創意工夫して歌う。 | ○ | | | ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な, 曲にふさわしい発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。 | 授業態度、 観察評価 ワークシート |
| | | | | ○ | | ・音色, 速度, 旋律, 強弱を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように歌うかについて表現意図をもっている。 | |
| | | | | | ○ | ・歌詞の内容や曲の背景に関心をもち, 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | |
| 9 10 | ギター | ギターの基本的な奏法を理解し, 表現を工夫して演奏する。 | ○ | | | ・曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な, 曲にふさわしい奏法, 身体の使い方などの技能を身に付け, 器楽で表している。 | |
| | | | | ○ | | ・音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように演奏するかについて意図をもっている。 | |
| | | | | | ○ | ・曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心をもち, 主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 | |
| 11 12 | クラス合唱 | 曲にふさわしい発声で表情豊かに歌う。 | ○ | | | ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な, 曲にふさわしい発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。 | |
| | | | | ○ | | ・音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように歌うかについて表現意図をもっている。 | |
| | | | | | ○ | ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち, 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | |
| 1 | Caro mio ben 楽典 | 日本や諸外国の歌曲に親しみ, 表現を工夫して独唱する。 | ○ | | | ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な, 曲にふさわしい発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。 | 授業態度、 観察評価 ワークシート |
| | | | | ○ | | ・リズム, 旋律を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように歌うかについて表現意図をもっている。 | |
| | | | | | ○ | ・イタリア語による歌唱や曲の雰囲気を生かした表現に関心をもち, 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | |
| 2 3 | 西洋音楽史 式歌 | 曲にふさわしい発声で表情豊かに歌う。 | ○ | | | ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり, 及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 | |
| | | | | ○ | | ・音色, リズム, 旋律, 形式, 構成を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに, 音楽の意味や価値について考え, 音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 | |
| | | | | | ○ | ・曲の構成や音楽に込められた作曲者の思いに関心をもち, 主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|--|-----|------|--|----------|
| 科目 | 英語コミュニケーションI | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | VISTA English Communication I (三省堂) | | 副教材等 | LEAP Basic(数研出版) VISTA English Communication I ワークブック(三省堂) | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きに関する知識を身につけ、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者とのかわりに着目して捉えることを通して、目的や場面、状況に応じた実践的なコミュニケーションに必要な資質・能力を育成することを目指す。 |
|---------|---|

| 評価の観点 | | |
|--|---|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を深めており、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面に応じて適切に活用できる技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考え、話し手や書き手の意図などを的確に理解しており、また、これらを活用して表現している。 | 外国語の背景にある文化について理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|----------|--------------------------------|---|-------|---|---|--|----------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 5 | Lesson 1 Colors of Spring | 春についての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 | ○ | | | 春について、be 動詞・一般動詞の現在形に注意しながら、内容を読み取ることができる。 | 定期考査 発問評価 提出物 パフォーマンス評価 |
| | | | | ○ | | 色/春について、基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えることができる。 | |
| | | | | | ○ | 色/春について、基本的な語句や文を用いて、意欲的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしている。 | |
| 6 7 | Lesson 2 Dick Bruna | ディック・ブルーナーさんについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 | ○ | | | ディック・ブルーナーさんについて、be 動詞・一般動詞の過去形に注意しながら、内容を読み取ることができる。 | |
| | | | | ○ | | ディック・ブルーナーさんについて、理解を深めるために、対話を読み取り、概要や要点を把握することができる。 | |
| | | | | | ○ | ディック・ブルーナーさんについて、理解を深めるために、対話を主体的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 | |
| 8 9 | Lesson 3 Interesting Sports | おもしろいスポーツについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 | ○ | | | おもしろいスポーツについて、進行形に注意しながら、内容を読み取ることができる。 | 定期考査 発問評価 提出物 パフォーマンス評価 |
| | | | | ○ | | スポーツについて、基本的な語句や文を用いて、自分の考えを話すことができる。 | |
| | | | | | ○ | スポーツについて、基本的な語句や文を用いて、意欲的に自分の考えを話そうとしている。 | |
| 10 11 | Lesson 4 Pictograms | ピクトグラムの役割についての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 | ○ | | | ピクトグラムの役割についての発表について、助動詞と動名詞に注意しながら、内容を読み取ることができる。 | |
| | | | | ○ | | オリジナルのピクトグラムについて、基本的な語句や文を用いて発表することができる。 | |
| | | | | | ○ | オリジナルのピクトグラムについて、基本的な語句や文を用いて、意欲的に発表することができる。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---------|--------------------------------------|--|-------|---|---|--|--------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 12 1 | Lesson 5 We Are Part of Nature | 岩合光照さんへのインタビューから、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 | ○ | | | 岩合光照さんへのインタビューについて、不定詞に注意しながら、内容を読み取ることができる。 | 定期考査 発問評価 提出物 パフォーマンス 評価 |
| | | | | ○ | | 岩合光照さんについて、理解を深めるために、インタビューを読み取り、概要や要点を把握することができる。 | |
| | | | | | ○ | 岩合光照さんについてのインタビューを読み取り、意欲的に概要や要点を把握しようとしている。 | |
| 2 3 | Lesson 6 Machu Picchu | 世界遺産であるマチュピチュについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 | ○ | | | マチュピチュについて、現在完了形に注意しながら、内容を読み取ることができる。 | |
| | | | | ○ | | 行ってみたい世界遺産について、基本的な語句や文を用いて相手に伝えることができる。 | |
| | | | | | ○ | 行ってみたい世界遺産について、基本的な語句や文を用いて、意欲的に相手に伝えようとしている。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|----------------|-----|------|-----------|---|
| 科目 | 基礎看護 | 単位数 | 5単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 基礎看護 (実教出版) | | 副教材等 | | 看護学入門5 基礎看護Ⅰ 看護学入門6 基礎看護Ⅱ 看護学入門7 基礎看護Ⅲ (メヂカルフレンド社) |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | <p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付ける。 ・看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
|---------|---|

| 評価の観点 | | |
|---|--|---|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 看護の社会的な役割や機能とそれに伴う責任を歴史的な経緯を含めて理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、看護の共通技術を基に基礎的な援助に関する知識と技術を身に付けている。 | 援助を必要とする身近な事例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえて生活者の安全・安楽や生活の質の向上の視点から援助を考察するとともに、実施する援助の科学的根拠を明確にして問題を解決する力を身に付けている。 | 看護の本質の理解を基に望ましい看護観や職業観、倫理観を育み、人間愛を基盤とする豊かな人間性をもって、人々の健康の保持増進のためによりよい看護を目指し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|-------------------|---------|---|-------|---|---|---|--|
| | | | a | b | c | | |
| 4 | 看護の本質 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護の意義 ・看護の役割と機能 ・看護の対象 ・協働する専門職 ・看護における倫理 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・看護の本質について理解できる。 ・看護の本質に関わる課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・看護の本質を深く理解するために自ら学び、人々の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 技術到達度 小テスト |
| 4 10 12 | 看護の共通技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・感染予防 ・安全管理 ・フィジカルアセスメント | ○ | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・看護の共通技術について理解するとともに身に付けることができる。 ・看護の共通技術について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・看護の共通技術について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 技術到達度 小テスト |
| 4 6 8 12 | 日常生活の援助 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の理解 ・環境調整 ・食事と栄養 ・排泄 ・活動と運動 ・休息と睡眠 ・清潔と衣生活 | ○ | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の援助について理解するとともに関連する技術を身に付けることができる。 ・日常生活の援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・日常生活の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 技術到達度 小テスト |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|--------------------|---------|---|-------|---|---|--|--|
| | | | a | b | c | | |
| 7 10 12 3 | 診療に伴う援助 | <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環・体温調整 ・創傷管理 ・診療・検査・処置 ・救命救急処置 ・終末時のケア | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・診療に伴う援助について理解するとともに関連する技術を身に付けることができる。 ・診療に伴う援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・診療に伴う援助について自ら学び、対象の安全・安楽を守り、救命や回復の促進、穏やかな最期を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 技術到達度 小テスト |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|---------------------------------|-----|-----|-----------|----------|
| 科目 | 人体の構造と機能 | 単位数 | 3単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 看護学入門Ⅰ 人体のしくみと働き (メヂカルフレンド社) | | | 副教材等 | なし |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>看護の見方・考え方を働かせ、人体の構造と機能に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能について体系的・系統的に理解するようにする。 ・人体の構造と機能に関連する生活行動や健康の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・人体の構造と機能について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|---|--|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 人々の健康について考える科学的視点の一つとして、解剖生理学と栄養学の基礎的事項を人間の生活行動と関連付けて理解することによって、生活者である人間の健康状態を観察する知識を身に付けている。 | 人々の生活行動に関連する基本的な健康課題を発見し、人体の機能と構造の視点から捉え、看護の職業倫理を踏まえて、解決する力を身に付けている。 | 人々の健康の保持増進のために、人体の構造と機能の内容を活用する実践的・体験的な学習活動を通して、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|------------------|------|------------|-------|---|---|--|-------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 5 6 7 | 解剖生理 | ・人体の構成 | ○ | ○ | ○ | ・解剖生理について理解できる。 ・解剖生理と生活行動を関連付け、健康に関わる基本的課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・解剖生理について自ら学び、健康の保持増進を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 小テスト 提出物 |
| 9 10 | 解剖生理 | ・器官系の構造と機能 | ○ | ○ | ○ | ・解剖生理について理解できる。 ・解剖生理と生活行動を関連付け、健康に関わる基本的課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・解剖生理について自ら学び、健康の保持増進を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 小テスト 提出物 |
| 11 12 | 解剖生理 | ・生体の恒常性 | ○ | ○ | ○ | ・解剖生理について理解できる。 ・解剖生理と生活行動を関連付け、健康に関わる基本的課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・解剖生理について自ら学び、健康の保持増進を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 小テスト 提出物 |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|--------|------|-----------|-------|---|---|---|-------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 1 2 | 解剖生理 | ・生体の防御機構 | ○ | | | ・解剖生理について理解できる。 | 定期考査 授業態度 発問評価 小テスト 提出物 |
| | | | | ○ | | ・解剖生理と生活行動を関連付け、健康に関わる基本的課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見いだすことができる。 | |
| | | | | | ○ | ・解剖生理について自ら学び、健康の保持増進を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|---|-----|-----|-----------|----------|
| 科目 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 単位数 | 4単位 | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 看護学入門2 栄養・薬理 看護学入門3 疾病の成り立ち 看護学入門8 成人看護Ⅰ (メヂカルフレンド社) | | | 副教材等 | なし |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | <p>看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解できるようにする。 ・疾病の成り立ちと回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・疾病の成り立ちと回復の促進について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
|---------|---|

評価の観点

| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| 人々の健康状況と疾病の予防や早期発見、回復の促進について考える科学的視点の一つとして、病理病態学や薬理学の基礎的事項を人間の生活行動と関連付けて理解することによって、生活者である人間の健康状態を観察する知識を身に付けている。 | 疾病の成り立ちや回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえ、疾病の予防や早期発見、回復の促進に向けて解決する力を身に付けている。 | 人々の健康の保持増進のために、疾病の成り立ちと回復の促進の内容を活用する実践的・体験的な学習活動を通して、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---------|-------------|--|-------|---|---|---|-------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 | 疾病の原因と生体の回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の予防・早期発見 ・疾病の原因 ・生体の回復 | ○ | | | ・疾病の原因と生体の回復について理解することができる。 | 定期考査 授業態度 提出物 小テスト 発問評価 |
| | | | | ○ | | ・疾病の原因と生体の回復の概要と過程を踏まえ、看護の役割を考慮することができる。 | |
| | | | | | ○ | ・疾病の原因と生体の回復について自ら学び、多様な人々の回復の促進を目指す看護への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |
| 5 | 基本的な病因 | <ul style="list-style-type: none"> ・循環障害 ・炎症 ・代謝障害 ・遺伝と先天異常 ・免疫異常 ・腫瘍 ・感染 | ○ | | | ・基本的な病因について理解できる。 | |
| | | | | ○ | | ・基本的な病因の特徴と概要を踏まえ、各病因が心身に与える影響や予防、課題について考えることができる。 | |
| | | | | | ○ | ・基本的な病因について自ら学び、人々の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |
| 6 7 | 疾病の診断過程と治療 | <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の診断過程 ・疾病と臨床検査 ・主な治療法 | ○ | | | ・疾病の診断過程と治療について理解できる。 | |
| | | | | ○ | | ・疾病の診断過程と治療に関わる特徴を踏まえ、看護の役割を考慮することができる。 | |
| | | | | | ○ | ・疾病の診断過程と治療について自ら学び、多様な人々の安全・安楽を守り、診療に伴う援助、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |
| 45 6 | 疾病と薬物 | <ul style="list-style-type: none"> ・薬物の作用 ・薬物と生体の反応 | ○ | | | ・薬物の作用と薬物と生体の反応について理解できる。 | 定期考査 授業態度 提出物 小テスト 発問評価 |
| | | | | ○ | | ・薬物の作用と薬物と生体の反応が心身に及ぼす影響を踏まえ、薬物を扱う看護の役割の重要性について考えることができる。 | |
| | | | | | ○ | ・薬物の作用と薬物と生体の反応について自ら学び、人々の安全を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に学習に取り組もうとしている。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|-------------|--------|---|-------|---|---|--|-------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 9 10 | 疾病と薬物 | <ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法 ・薬物による健康被害 | ○ | | | ・薬物療法、薬物による健康被害について理解できる。 | 定期考査 授業態度 提出物 小テスト 発問評価 |
| | | | | ○ | | ・薬物療法と薬物による健康被害が心身に及ぼす影響を踏まえ、薬物を扱う看護の役割の重要性について考えることができる。 | |
| | | | | | ○ | ・薬物療法と薬物による健康被害について自ら学び、人々の安全を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |
| 11 12 | 各機能の障害 | <ul style="list-style-type: none"> ・循環機能の障害 ・栄養の摂取消化・吸収・代謝機能の障害 | ○ | | | ・各機能の障害について理解できる。 | 定期考査 授業態度 提出物 小テスト 発問評価 |
| | | | | ○ | | ・各機能の障害が心身に及ぼす影響を踏まえ、予防や健康管理について考えることができる。 | |
| | | | | | ○ | ・各機能の障害について自ら学び、多様な人々の安全・安楽を守り、生体の回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |
| 1 2 3 | 各機能の障害 | <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸機能の障害 ・生殖機能の障害 | ○ | | | ・各機能の障害について理解できる。 | 定期考査 授業態度 提出物 小テスト 発問評価 |
| | | | | ○ | | ・各機能の障害が心身に及ぼす影響を踏まえ、予防や健康管理について考えることができる。 | |
| | | | | | ○ | ・各機能の障害について自ら学び、多様な人々の安全・安楽を守り、生体の回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|---|-----|----------------|-----------|----------|
| 科目 | 健康支援と社会保障制度 | 単位数 | 2単位 (1,2学期) | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 看護学入門4 保健医療福祉のしくみ・看護と法律 (メヂカルフレンド社) | | 副教材等 | なし | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>看護の見方・考え方を働かせ、健康支援としての公衆衛生と社会保障制度に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康支援と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・健康支援と社会保障制度に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・健康支援と社会保障制度について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、社会の変化に対応した生活の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|---|--|---|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 生活環境や生活行動が健康に与える影響及び、基本的人権に基づいて生活するための制度について理解するとともに、地域で生活している人々の健康支援を多面的に捉えて対応する基礎的な知識と技術を身に付けている。 | 健康支援や社会保障制度に関連する基本的な課題を発見し、生活環境や生活行動、生活の質の視点から捉え、看護の職業倫理を踏まえて、解決する力を身に付けている。 | 人々の健康の保持増進と生活の質の向上のために、健康支援や社会保障制度の内容を活用する実践的・体験的な学習活動を通して、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------------|--------|---|-------|---|---|--|-------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 7 8 | 公衆衛生 | <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の基本 ・生活環境と健康 ・生活者の健康増進 ・感染症と対策 ・保健活動 | ○ | | | ・公衆衛生について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト |
| | | | | ○ | | ・健康支援としての公衆衛生の現状について基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見出すことができる。 | |
| | | | | | ○ | ・健康支援としての公衆衛生の現状について自ら学び、対象となる人々による健康管理を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |
| 9 10 11 12 | 社会保障制度 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の基本 ・保健に関する制度 ・医療に関する制度 ・福祉に関する制度 | ○ | | | ・社会保障制度について理解することができる。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト |
| | | | | ○ | | ・社会保障制度の特徴と概要を踏まえ、看護への活用について考えることができる。 | |
| | | | | | ○ | ・社会保障制度について自ら学び、対象となる人々の生活を向上し、自立した生活が送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|------------------------------|-----|----------------|-----------|----------|
| 科目 | 成人看護 | 単位数 | 1単位 (2,3学期) | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 看護学入門8 成人看護 I (メヂカルフレンド社) | | 副教材等 | なし | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、成人看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|---|--|---|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 対象となる年齢層が幅広く、生活形態の変化も大きい成人期の疾病予防や障害等に応じた看護について、具体的な事例を通して学習することによって、生活習慣や家事、仕事、子供の育児、親の介護等が成人期の健康に与える影響を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身に付けている。 | 成人期の健康課題について具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ意思決定や行動変容を支援して、望ましい生活習慣の獲得、セルフケアを促す視点から援助を考察するとともに、実施する援助とその根拠を明確にして、課題を解決する力を身に付けている。 | 成人の健康課題の解決に当たっては、仕事や家庭、地域社会での役割と健康づくりの両立を目指し、主体的かつ協動的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|----------------|-------------------|---|-------|---|---|--|-------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 9 | 成人の健康と看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・成人各期の特徴 ・成人の保健と福祉 ・成人看護の特徴 ・成人看護の倫理的課題 | ○ | | | ・成人の生活・健康の特徴を踏まえた看護について理解できる。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト |
| | | | | ○ | | ・成人の生活・健康の特徴に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理感を踏まえて解決策を見いだすことができる。 | |
| | | | | | ○ | ・成人の生活・健康の特徴に応じた看護について自ら学び、成人の健康の保持増進を目指して主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 | |
| 10 11 12 | 健康レベルや障害の状況に応じた看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・急性期 ・慢性期 ・終末期 ・リハビリテーション看護 ・がん看護 | ○ | | | ・健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 | |
| | | | | ○ | | ・健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 | |
| | | | | | ○ | ・健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 | |
| 1 2 | 機能障害のある患者の看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸機能障害 ・循環機能障害 ・消化・吸収機能障害 | ○ | | | ・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト |
| | | | | ○ | | ・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 | |
| | | | | | ○ | ・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 | |

令和7年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|--------|-----|----------------|-----------|----------|
| 科目 | 看護臨地実習 | 単位数 | 2単位 (2,3学期) | 学年・学科・コース | 1年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | なし | | 副教材等 | | なし |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | <p>看護の見方・考え方を働かせ、臨地において実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
|---------|---|

| 評価の観点 | | |
|--|--|--|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 臨地における実践的・体験的な学習活動を通して、臨地の施設・設備や社会資源を理解し、看護に属する各科目で習得した知識と技術の統合を図るとともに、看護を実践する際のリスクマネジメントを踏まえた知識と技術も身に付けている。 | 臨地における看護の対象がもつ様々な健康課題について、対象の理解を基盤とした上で必要な援助を探究し、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、対象の多様な価値観の尊重と意思決定の支援などを踏まえて解決する力を身に付けている。 | 多様な健康課題の解決に当たっては、臨地における実践的・体験的な学習活動を通して、看護の職業倫理、生命倫理、人権擁護などに基づく望ましい看護観を醸成し、看護職の果たすべき役割を踏まえ、保健医療福祉に関わる多職種と連携・協働し主体的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|----|----------|--|-------|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | | |
| 7 | 基礎看護臨地実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉施設の機能と看護の役割 ・対象の理解 ・看護におけるコミュニケーション | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・臨地における看護実践の基礎について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・臨地における看護実践の基礎に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。 ・臨地における看護実践の基礎について自ら学び、よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 参加態度 実習日誌 提出物 自己評価 技術到達度 指導者評価 |
| 12 | 基礎看護臨地実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉施設の機能と看護の役割 ・対象の理解 ・看護におけるコミュニケーション ・日常生活の援助 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・臨地における看護実践の基礎について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・臨地における看護実践の基礎に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。 ・臨地における看護実践の基礎について自ら学び、よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 参加態度 実習日誌 提出物 自己評価 技術到達度 指導者評価 |